

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	120人	社会	120人	数学	120人
	理科	121人	英語	121人		

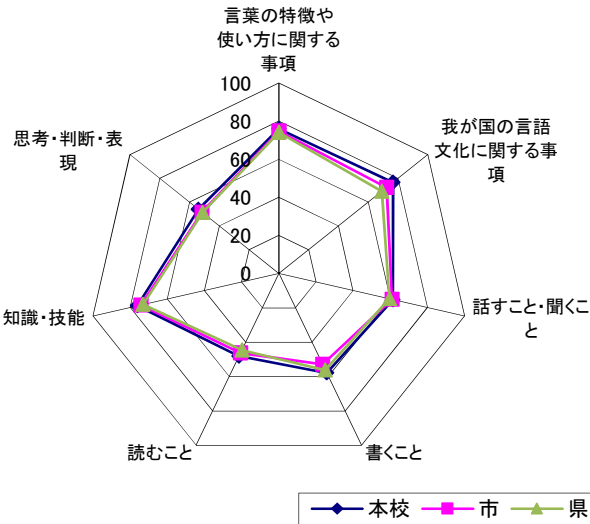
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.9	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	76.7	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	61.5	60.9	59.5
	書くこと	57.9	52.8	56.2
	読むこと	48.1	46.2	44.5
観点	知識・技能	76.1	74.2	73.1
	思考・判断・表現	53.9	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

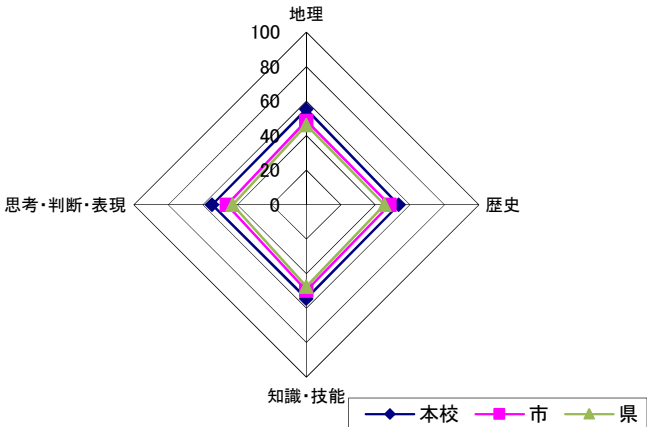
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に 関する事項	○県の平均と比較すると+1. 8ポイント、市の平均と比較すると+1. 2ポイントであった。 ○敬語の働きについて理解している生徒は県と比較して+3. 0ポイントと、若干ではあるが上回っている。 ●第1学年までに学習した漢字については県平均を4. 5ポイント下回った。	・漢字については定期的に小テストを行っているが、それとは別に短時間で漢字の復習の時間を設ける。その際は誤答率が多い漢字に絞り、定着を図る。
我が国の言語文化 に関する事項	○県の平均と比較すると+7. 6ポイント、市の平均と比較すると+4. 2ポイントであった。 ○歴史的仮名遣いを直す問題では県と比較して7. 3ポイント上回っており、理解が深まっていることが分かる。	・全て上回ってはいるものの、古文に対する苦手意識は依然あるので、読みやすいものから教科書の古文というふうにし、苦手意識を軽減させてから学習を進めていく。
話すこと・ 聞くこと	○県平均と比較すると+2. 0ポイント、市の平均と比較すると0. 6ポイント上回った。 ○自分の考えが明確になるよう話の構成を考えることに関しては県平均と比較して3. 6ポイント上回った。 ●互いの考えをつなげて自分の考えをまとめることに関しては県平均を5. 0ポイント下回った。	・話し合う際に、まずは最初にテーマに対しての自分の考えをまとめる。その上でどんな考えが出されたかをまとめ、それぞれを整理した上で自分の考えを話す学習を行っていく。
書くこと	○県平均と比較して+1. 7ポイント、市の平均と比較すると5. 1ポイント上回った。 ○読み取った内容を明確にして書くことに関しては、県平均を5. 5ポイント上回った。 ●条件に沿って書く(2段落構成)に関しては県平均を0. 3ポイント下回った。	・条件作文は授業でも苦手としているので、書く作業に入る前に条件を押さえる時間を設けてから作業に入る。机間指導しながら条件から逸れているものを適宜指導していく。
読むこと	○県平均と比較して+3. 6ポイント、市の平均と比較して+1. 9ポイントであった。 ○情報を基に内容を解釈することに関しては県平均を9. 7ポイントと、大きく上回った。 ●叙述を基に内容を捉えることについては、県平均を4. 4ポイント下回った。	・文章の読み取りに課題が残っているので、一つ一つの描写の意味や暗示等の効果についても指導していく。その中で、描写に用いられている語句の意味も確認し、語彙力の増加につなげる。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.3	48.6	46.2
	歴史	53.5	48.3	45.3
観点	知識・技能	54.4	49.8	47.5
	思考・判断・表現	54.6	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

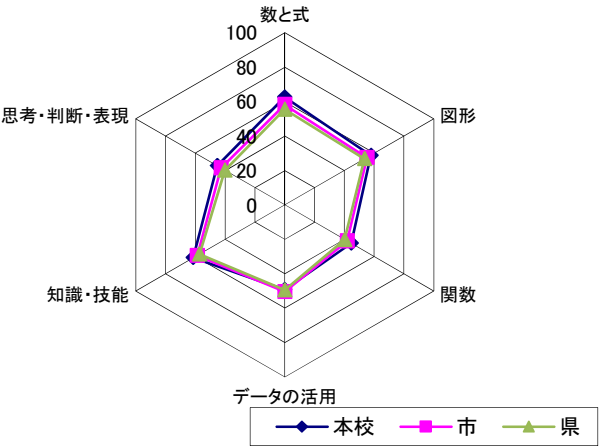
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率について、県平均に比べると+9.1ポイント、市平均に比べると+6.7ポイントであった。 ○周辺国との領土をめぐる問題を抱えている島々の位置と、問題の背景について理解しているかどうかをみる問題については、県平均を21.9ポイント、市平均を18.6ポイント上回った。 ○高山気候の特色について理解しているかどうかをみる問題については、県平均を14.2ポイント、市平均を10.4ポイント上回った。 ○中国の経済的發展と関わりのある事柄を示す資料について判断しているかどうかをみる問題については、県平均を10.6ポイント、市平均を8.9ポイント上回った。 ○資料から、EU加盟国間で人々が移動する理由と移動先を関連付けて考察しているかどうかをみる問題については、県平均を14ポイント、市平均を11.5ポイント上回った。 ○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、アフリカ州のモノカルチャー経済の課題について表現しているかどうかをみる問題については、県平均を15.1ポイント、市平均を12.3ポイント上回った。 ●資料から世界各地の気候や人々の生活の様子を読み取り、資料で示された地域的特徴がどの場所で見られるものかを考察しているかどうかをみる問題については、市平均を0.4ポイント下回った。	・地理の学習内容について、どの地域やどの場所のものなのか、地図で確認する学習活動をさらに徹底・充実させるようにする。 ・地理的事象の名称だけでなく、理由や目的、背景についてさらに理解を深め、説明など表現できるようにさせる。 ・複数の資料を組合せ関連付けて説明することに、生徒たちは苦手意識をもっているため、授業の学習活動の中でそうした機会を設け、読み取り方について理解を深めさせる。
歴史	平均正答率について、県平均と比べると+8.2ポイント、市平均と比べると5.2ポイント上回った。 ○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対し農民たちがとった行動について表現しているかどうかをみる問題については、県平均を28.8ポイント、市平均を20.3ポイント上回った。 ○鎌倉時代に新しい仏教が広まった理由について、複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察しているかどうかをみる問題については、県平均を15.1ポイント、市平均を11.3ポイント上回った。 ○聖武天皇が目指した政治のあり方について理解しているかどうかをみる問題については、県平均を8.8ポイント、市平均を7.0ポイント上回った。 ●日本の遺跡からの出土品について理解しているかどうかをみる問題について、県平均を1.5ポイント、市平均を3.2ポイント下回った。 ●平安時代から鎌倉時代初期の武士に関するできごとについて述べた文を、古い順に並べかえることにより、武士が台頭してきた時期のできごとについて理解しているかどうかを見る問題については、県平均を3.1ポイント、市平均を1.3ポイント上回ったが、正答率は12.5ポイントと低かった。	・各時代の政治や産業、文化について、代表的な人物やできごと、作品などを関連付けながら理解できるようにさせる。 ・できごとを順番に並べかえる活動は、生徒が苦手とするところである。武士の台頭から武士が政権を握るまでの社会の変化やできごとを正しい順番で理解していることは、時代の特徴を理解する上で重要であるので、そのような学習活動の機会を設け理解を深めさせる。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.6	58.2	55.5
	図形	57.7	55.1	53.5
	関数	44.6	41.9	40.2
	データの活用	49.3	50.5	49.4
観点	知識・技能	61.5	58.8	57.3
	思考・判断・表現	45.4	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

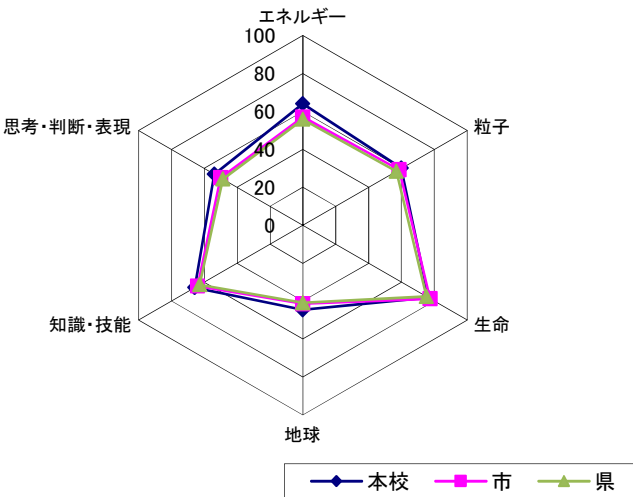
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率について、県平均と比べると+7.1ポイント、市平均と比べると+4.4ポイントであった。 ○正負の数、文字式、1次方程式の基本的な計算は、正答率が高く、市・県の平均を上回り、数値としても高い正答率となった。 ●1次方程式の計算で、係数に分数を含む計算問題や、文章から一次方程式を立式することに課題が見られる。	・分数や小数を含む計算問題を取り組む機会を増やし、計算に慣れさせていく必要がある。 ・方程式の分野において、立式する手順についてよく確認させ、多くの問題に取り組ませる。
図形	平均正答率について、県平均と比べると+4.2ポイント、市平均と比べると+2.6ポイントであった。 ○作図や回転移動、おうぎ形の数量関係、円柱の体積や側面積の求め方について、市・県の平均を1.5ポイント以上上回っている。 ●ねじれの位置について市・県の平均を下回り、理解が不十分であった。また、市・県の平均は上回ったものの、円柱の側面積や、円柱と円錐を比較した体積について、半径の等しい円とおうぎ形の間の関係について課題が見られる。	・実際に立体を見せたり、デジタル教材を利用し、ねじれの位置を含めた辺や面の位置関係について理解を図る。また、複雑な立体における位置関係についても取り扱い、より深い理解につなげさせたい。 ・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方や立体の表面積の求め方について、反復練習で身に付けさせたい。おうぎ形は半径が同じ円の一部であるという考えを、十分に理解させる。 ・底面の形が同じである立体の体積を比較するような、活用問題に取り組む機会を増やし、慣れさせていく。
関数	平均正答率について、県平均と比べると+4.4ポイント、市平均と比べると+2.7ポイントであった。 ○比例のグラフから数量関係を読みとる問題について、グラフからそのまま読みとれるものについて市・県の平均を上回っている。 ●座標から反比例の式を求める問題や、水そうに入れる水の量を変えたとき満水になるまでの時間について式やグラフを考える問題などが市・県の平均を下回った。また、平均は上回ったものの、変域のある比例のグラフや、グラフから読み取ったことを活用する問題に課題が見られる。	・反比例の式や表、グラフを関連させて考え、反比例についての理解を深めさせる。 ・比例・反比例の活用の問題について、変域のある問題にも多く取り組み、文章、グラフから読み取れることを理解し、活用していく力を伸ばしていく。
データの活用	平均正答率について、県平均と比べると-0.1ポイント、市平均と比べると-1.2ポイントであった。 ○グラフから総度数を求める問題や、最頻値と中央値の関係について考える問題については、市・県の平均を上回り、高い数値となった。 ●グラフから累積度数を求める問題や、ヒストグラムから幅跳びの記録の良い方の中学校がどちらかを考える問題で、相対度数を求め説明する問題に課題が見られた。また、全体的にデータを整理する際の用語の理解が不十分である。	・データから、度数分布表やヒストグラムにまとめる際に使う言葉(階級の幅、相対度数、累計度数、累積度数等)をよく理解させる。 ・総度数が異なる2つ以上のデータを比較する際、そのまま度数で見るのではなく、相対度数を求めることで比較するなど、データから特徴を読み解く際のポイントについて十分指導する時間を確保する。 ・データの活用における学習時間を十分確保し、基本的な知識・技能の習得はもちろんのこと、学習したことを活用しグラフから特徴を読みとったり、その特徴について説明する力を身に付けさせるための取り組みの時間を確保し、身に付けさせたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	64.0	57.0	55.7
	粒子	60.0	58.6	56.9
	生命	76.3	77.5	75.2
	地球	44.6	41.4	40.9
観点	知識・技能	65.8	64.1	62.8
	思考・判断・表現	53.8	50.1	48.7



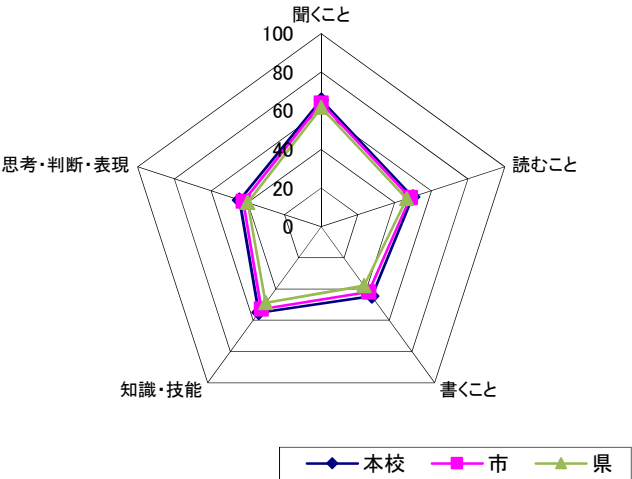
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率について、県平均と比べると+7.0ポイント、市平均と比べると+8.3ポイントであった。 ○空気が音を伝えることや光が直進するといった音や光の基本的な性質が身に付いている。 ●実験方法から、どのような結果になるのかを推測して答える問題の正答率が低い。鏡の反射の問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な現象や事象への理解が短絡的な暗記になってしまうことがないように、事象に対して関心をもたせ、課題解決的な学習を通して本質的な理解を伴った知識の定着を図る。
粒子	平均正答率について、県平均と比べると+3.1ポイント、市平均と比べると+1.4ポイントであった。 ○ガスバーナーの使い方や実験上での注意点の正答率が高く、実験操作の理解が高い。掲示された物質の性質から部室を特定することができている。 ●質量パーセント濃度の計算やグラフの読み取り	・実験操作や物質の性質についての定性的な内容の理解が見られる一方で、濃度の計算やグラフといった定量的な内容に課題が見られる。そこで、濃度の計算においても、濃い、薄いといった定性的な内容から学びを深めるように指導を工夫する。
生命	平均正答率について、県平均と比べると+1.1ポイント、市平均と比べると-1.2ポイントであった。 ○生物の分類や生物が持つ特徴についての理解が高い。 ●植物のつくりから、植物を分類する説明する問題の正答率が低く、記述式の問題の正答率が低い。	・生徒のもつ興味関心を刺激し、もっと知りたいと思わせるような導入の工夫を継続し、多様な生物についての膨大な知識が系統的に整理し、論述できるように指導を工夫する。
地球	平均正答率について、県平均と比べると+3.7ポイント、市平均と比べると+3.2ポイントであった。 ○化石の名称や火成岩のつくりなどの正答率が高い。地震波と時間の表、計測地点の位置の図から震源地を読み取る問題の正答率が高い。 ●柱状図と等高線の図から適切なものを選択する問の正答率が低い。	・地球領域は三次元的な空間を取り扱うことが多く、生徒はイメージをもちにくく、理解が十分でないことが多い。視覚的に理解を補助するように立体的な資料を提示したり、理解しやすい例えに置き換えるなど、指導を工夫する。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	65.6	64.0	61.6
	読むこと	49.8	48.4	46.6
	書くこと	44.6	42.0	37.8
観点	知識・技能	55.1	52.9	48.9
	思考・判断・表現	44.5	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率について、県平均と比べると+4.0ポイント、市平均と比べると+1.6ポイントであった。 ○日常的話題について、話の概要を捉えることができている。 ●聞き取った内容を正確に絵と一致させることに対し、複雑な問題になると正確性に欠ける。	・まとまった文章量の問題を聞き取る時間を継続して設けていく。 ・ALTとの会話の機会を増やし、ネイティブなスピードの英語での会話に慣れさせる。
読むこと	平均正答率について、県平均と比べると+3.2ポイント、市平均と比べると+1.4ポイントであった。 ○対話とグラフから必要な情報を読み取る問題の正答率が高い。 ●日常的話題について、状況などから判断し、必要な情報を読み取る能力に課題がある。	・基本的な文法事項の定着を目指すとともに、長文を読むことに慣れさせる機会を増やしていく。その際、制限時間を設定し、必要な情報を掴む練習を行う。また、指示詞が何を指すのかや登場人物の心情や状況を表す語句などを明確にできるよう、繰り返し練習をする。
書くこと	平均正答率について、県平均と比べると+6.8ポイント、市平均と比べると+2.6ポイントであった。 ○疑問詞や、主語が三人称単数現在の際の動詞の活用に関して理解度が高い。 ●動詞の過去形に関して正答率が低い。また、日常的話題に関して読んだことについて、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことに関して苦手意識が見られる。	・自分の状況や意見を書いて表現する機会を増やすことで、英語を用いてまとまった文章で表現することに慣れさせる。また、与えられたキーワードや条件のもとで英文を書く活動を増やす。その際友人同士で助言し合ったり、書いた文を見せ合ったりすることで、互いの意欲と自信を高めていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習について、「テストで間違えた問題について勉強をしている」の質問に「はい」と回答した生徒は32.3%で、県を6.5ポイント上回っている。さらに、「学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に「はい」と回答した生徒は34.7%で、県を7.9ポイント上回っている。家庭学習の状況は比較的良好と思われるが、割合としてはまだまだ低いので、学習の方法について引き続き指導していきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の質問に肯定的回答をした生徒は89.0%で、県を6.6ポイント上回った。また、「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」の質問に肯定的回答をした生徒は76.4%で、県を4.9ポイント上回った。生徒との信頼関係をさらに構築し、生徒が学習に前向きに取り組めるような姿勢を継続していきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の質問に肯定的回答をした生徒は52.0%で、県を13.0ポイント下回った。また、「自分には、よいところがあると思う」という質問に肯定的回答をした生徒は73.2%で、県を5.7ポイント下回った。自己肯定感や自己有用感の低い生徒が多い傾向があるため、学級経営や授業の中で、自信をもたせたりよいところを認め称賛したりすることで自己肯定感を高めさせたい。

●各教科・領域の授業について「内容はよく分かりますか」や「好きですか」という質問に対する肯定的回答が、総じて県の肯定的回答を下回っている。「よく分かる」から「好き」になったり、「好き」だから「よく分かる」ようになったりすることの両面が考えられるが、授業や学習指導の中で、①授業に集中して理解に努め、②家庭学習でその日のうちに復習することで理解を定着させるように、学習のサイクルを意識させていきたい。学習についても自信の持てない生徒が多いので、自主学習ノートや学習計画表の内容について適切なアドバイスをするとともに、苦手な教科や内容のあきらめず、粘り強く学習に取り組むことの大切さを伝えていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
9か年のカリキュラムマネジメントとその評価の展開により、学力の向上を図る。	各教科の単元ごとの評価の観点や学習のポイントを明確化し、示すことで、見通しを立て主体的な学びに向かう力を育成する。また、地域学校園で各教科の課題を設定し、9か年を通して苦手とする部分の資質向上の工夫を行っている。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」への肯定的回答は、95%以上である。「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」についても、肯定回答率は91%以上であり、市や県のポイントを上回っている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」への肯定回答率も、82.7%であり、市や県を上回っている。
習熟度学習・TT ICT機器を生かし主体的、対話的で深い学びのための授業改善を図る。	授業の中で話し合いの場面を設け、他者の意見や考え方を知ることによって自分の学びを広げていくよう工夫している。意見交換にはグループチャットなどを用いる機会を増やし、発表が苦手な生徒も自分の考えを発信しやすいようにしている。また、自分の考えを文章で書く時間を設け、考えをまとめる力の育成を図っている。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の質問に肯定的に解答した生徒は89.8%であり、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」への肯定回答率は、90.6%と高く、市や県を上回っている。 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と考える生徒は47.2%であり、市や県より3ポイント前後高いポイントではあるが、課題が見られる。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と考えている生徒が60.6%おり、市や県に比べると6～7ポイント少ないとはいえ、自分の意見をまとめたり、発表したりすることに苦手意識がある生徒が半数以上いることが示されている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科や生徒質問の結果から、データや長文を分析し解答を導いたり、自分の考えを根拠に基づき論理的にまとめたりすることに課題が見られることが示された。	物事を分析したり、根拠に基づき説明したりする能力の育成	授業の中で話し合いや学んだことをまとめる活動を行っているが、その中で、根拠を上げてまとめたり発表したりすることを意識的に行えるよう、工夫していく。 本校で行っている新聞活用の活動などを生かし、時事や長文に触れる機会を更に増やし、自分の考えをまとめる力を育成する。